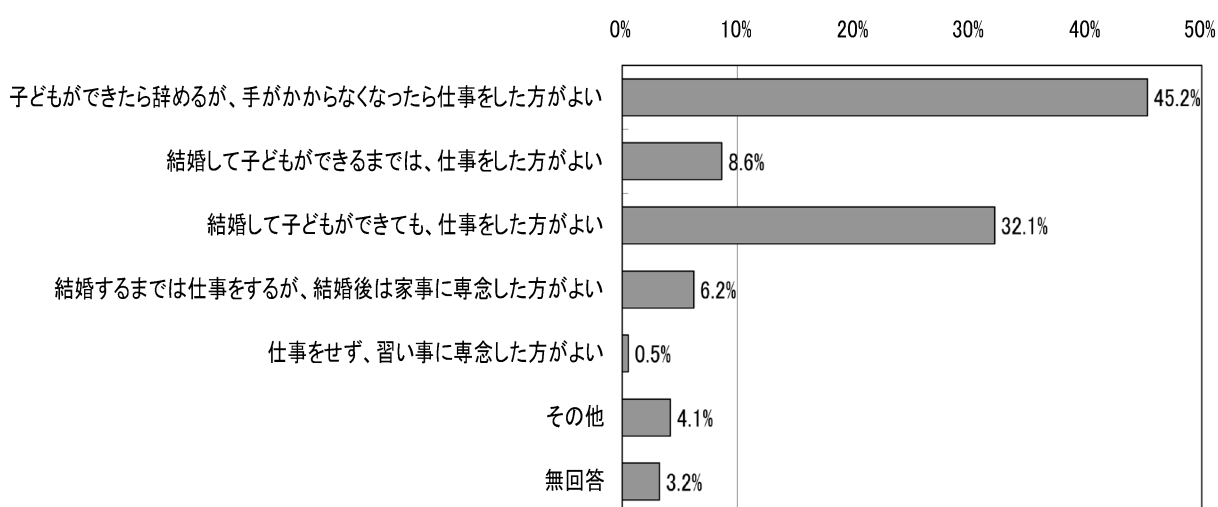


5. 就労について

問14 あなたは、女性が仕事をするについて、どう考えますか。 (1つだけに○)

「子どもができたなら辞めるが、手がかからなくなったら仕事をした方がよい」と回答した人が45.2%と最も多くなっており、次いで、「結婚して子どもができて、仕事をした方がよい」の32.1%となっています。



■「その他」の回答

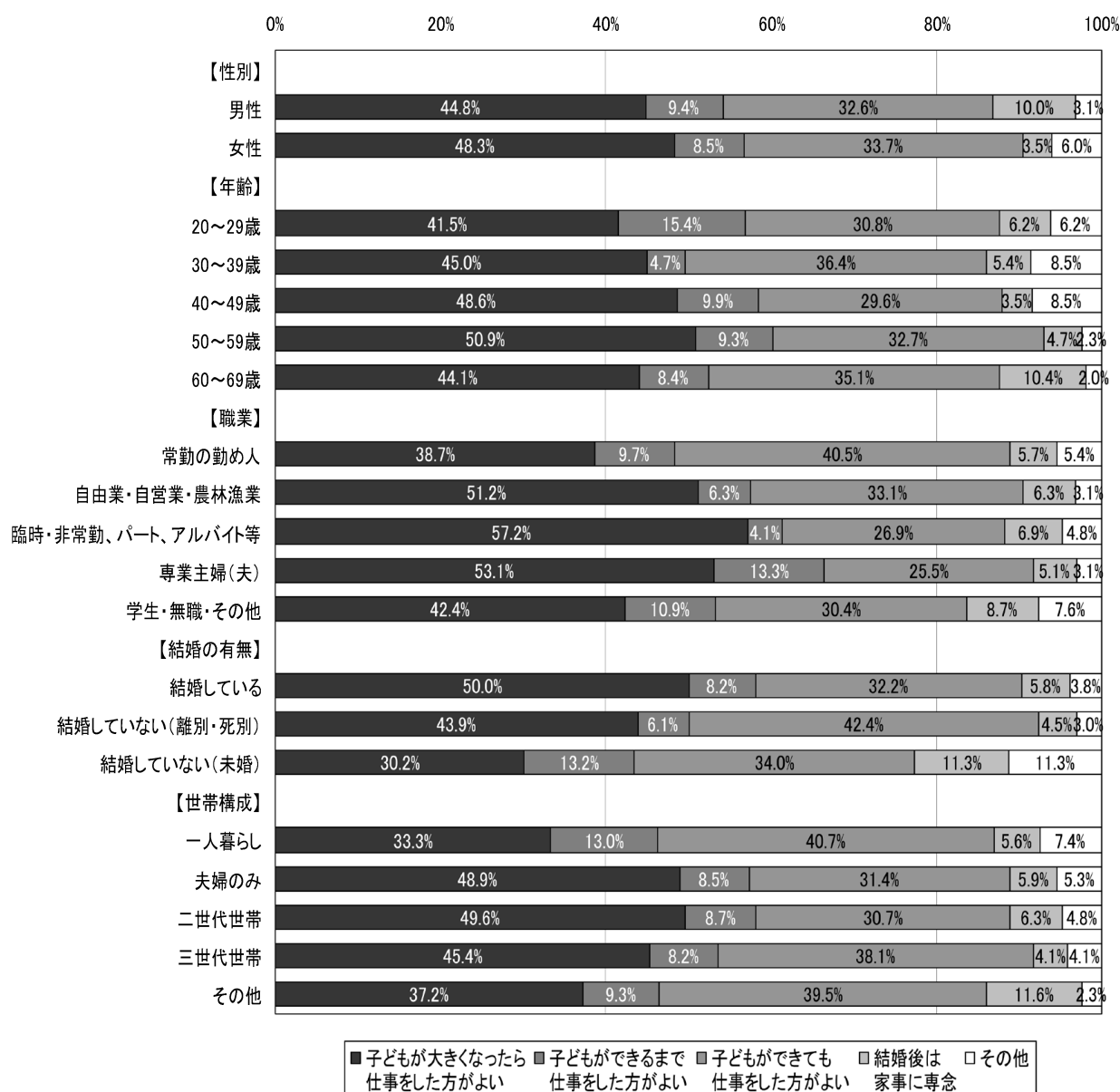
- ・自身の考え方で決めて良い。
- ・本人の意志を尊重すべき。
- ・歳をとっても仕事があるとしあわせ。
- ・どちらでもよい(1人1人の事情により)。
- ・本人の自由だし環境にもよると思う。
- ・子供ができたなら、産休を取り手がかからなくなったら。
- ・結婚したら、仕事を辞めて子育てをした方が、良い。と決めるのは不適當。
- ・ケースバイケースでよい。
- ・それぞれ本人の意思に任せればよい。
- ・人により考え方がちがうのでわからない。
- ・子供が小さいうちは家庭にが理想であるが、いったんやめると復帰が難しい現状の改善が必要である。
- ・「こうすべき」という考えこそ女性に対して失礼です。人それぞれの状況は違うのですから女性本人が選んでいくべき。
- ・自由意志。
- ・当該の人の意志が尊重されればよい。
- ・個人の自由。

- ・人それぞれ考え方が違うと思います。
- ・本人のしたいようにすれば良いと思う。
- ・経済的な問題。
- ・女性のやりたいようにしたら良いと思う。
- ・必要があれば、本人が望むなら固定概念はない。
- ・個人がしたかったらすればいいし、やめたければやめたらいい。本人の自由。
- ・家庭の状況によるので「～した方がよい」ということはない。
- ・周りの協力が得られれば仕事をした方が良い。するかしないかは自分の自由だと思う。
- ・その家族の経済状況に応じて。
- ・育児と仕事が両立できる環境があればよい。
- ・自分の意志で判断するのが良いと思う。
- ・人それぞれだと思います。個人的にできるだけ仕事したいです。
- ・人それぞれだから、本人達で決めれば良いと思う。
- ・基本的には家庭をしっかり守る事も大事。経済的余裕がなければ出来ない。
- ・仕事をしていると友達も増え、色々な世の中の流れを知ることが出来る。
- ・人それぞれなので一概に言えない。

問 14：女性が仕事をするについて（属性別）

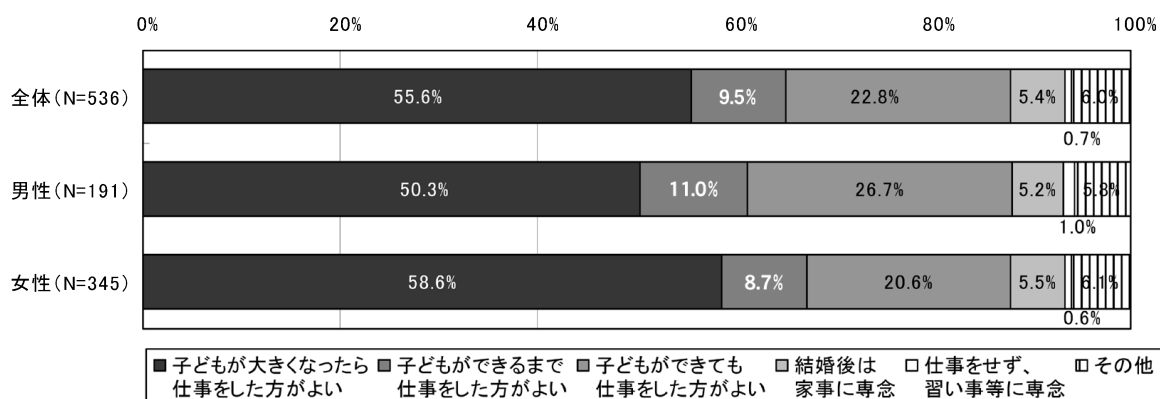
【性別】では、大きな差はありませんが、女性より男性の方が「結婚後は家事に専念」と回答した人の割合が多くなっています。【年齢】では、年代があがるにつれ「手がかからなくなったら仕事をした方がよい」という回答が多くなりますが、60歳代では少なくなり、「結婚後は家事に専念」という回答が他の世代に比べ多くなっています。【職業】では、常勤の勤め人の人は「結婚して子どもができて仕事をした方がよい」という回答が多くなっています。【結婚の有無】では、離別・死別の人は「結婚して子どもができて仕事をした方がよい」という回答が多くなっており、未婚者は「結婚後は家事に専念」という回答が多くなっています。【世帯構成】では、一人暮らし世帯で「結婚して子どもができて仕事をした方がよい」という回答が他の世帯に比べ多くなっています。

女性が仕事をするについて



【参考：平成 10 年調査】

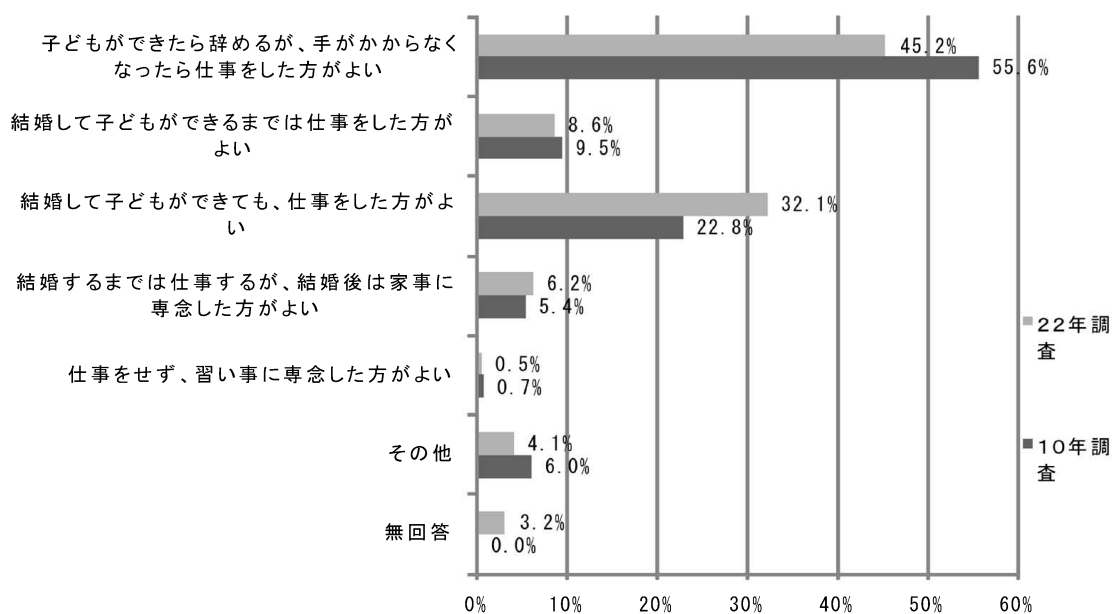
問 あなたは、女性が仕事をするについて、どう考えますか。



【前回調査との比較】

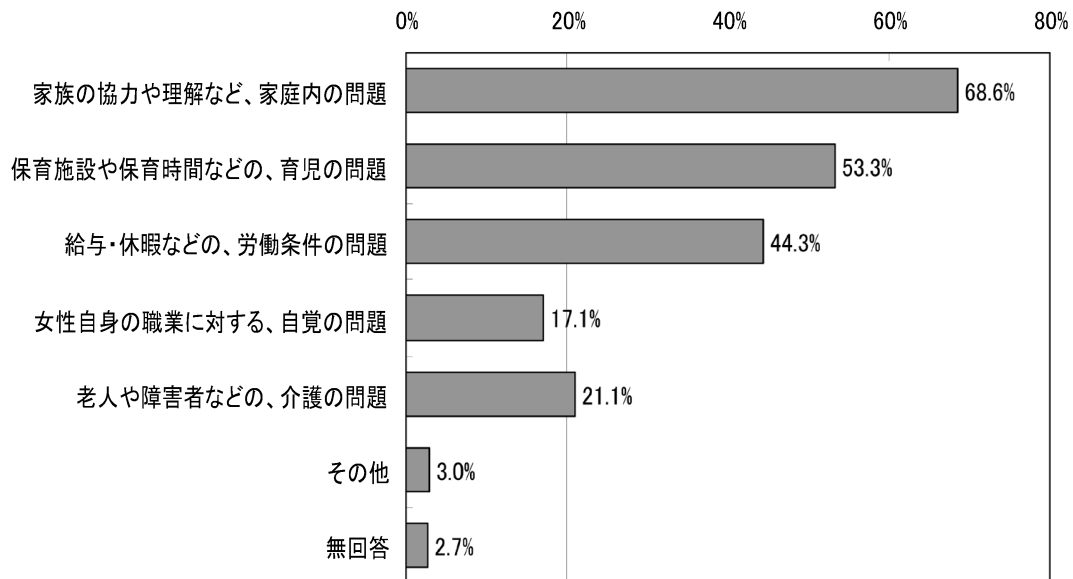
前回調査（平成 10 年）と比較すると、今回の調査では、「子どもができて仕事をした方がよい」という回答が増えています。（％）

	22年調査	10年調査
子どもができたら辞めるが、手がかからなくなったら仕事をした方がよい	45.2	55.6
結婚して子どもができるまでは仕事をした方がよい	8.6	9.5
結婚して子どもができて、仕事をした方がよい	32.1	22.8
結婚するまでは仕事するが、結婚後は家事に専念した方がよい	6.2	5.4
仕事をせず、習い事に専念した方がよい	0.5	0.7
その他	4.1	6.0
無回答	3.2	0.0



**問15 あなたは、女性が仕事をしていると、どのような問題があると思いますか。
(○はいくつでも)**

「家庭の協力や理解など、家庭内の問題」が 68.6%と最も高く、次いで「保育施設や保育時間などの、育児の問題」が 53.3%、「給与・休暇などの、労働条件の問題」の 44.3%となっています。

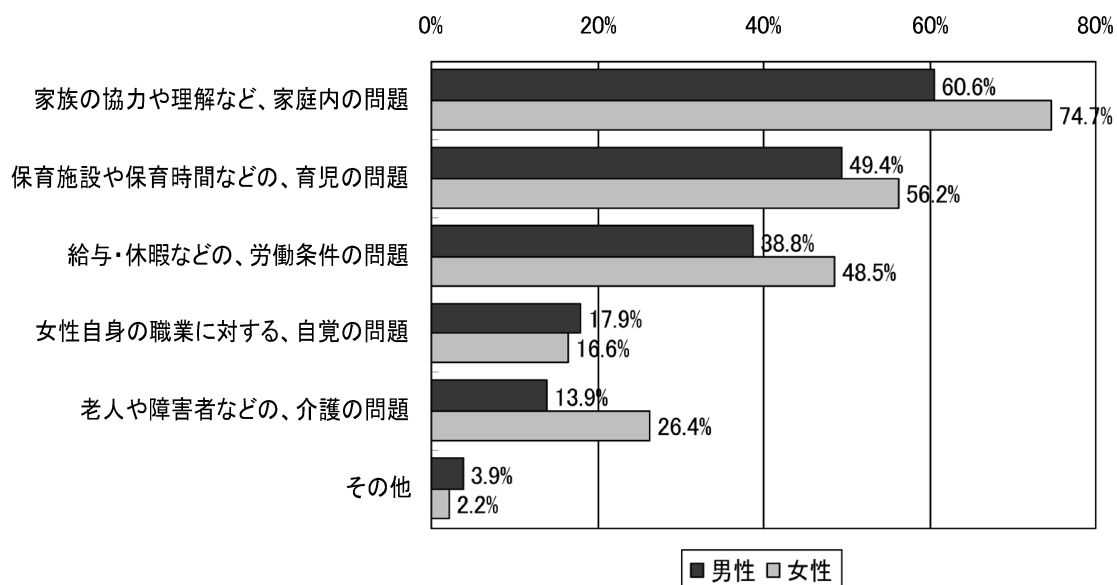


■「その他」の回答

- ・国を挙げて施設の整備をしていつでも仕事をするべき。
- ・女性が仕事をしていると問題があるという前提には賛成できない。
- ・今は1人生活でも職場があってしあわせ。
- ・母親の愛情不足に対する不満が将来、精神発育上の問題を残すのではないかな。
- ・自分も家族も病気にならないよう。
- ・女性が仕事を持つことにより大切な役割が難しくなりがちです。
- ・現在夫婦2人なので問題なし。
- ・その人の考え方による。
- ・職種によっては平等にあつかえない。
- ・「女性が仕事をする上で、どのような困難がありますか」とか問題はないという訳がない。
設問の文章は「女性が仕事をすることで生じる不都合」の有無になる。聞くべきは「女性が仕事をする上で障害になること」であろう。
- ・仕事と給料が合っていない。安月給。
- ・女性特有の病気等、理解の薄い問題。

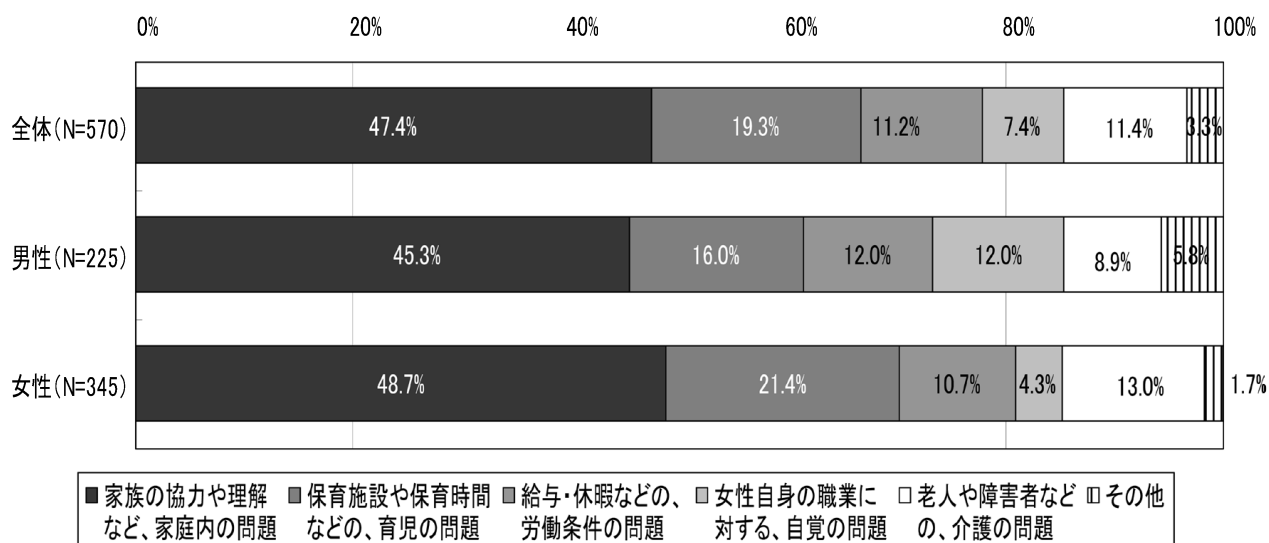
問 15：女性が仕事をしているときの問題について（男女別）

ほとんどの項目で、男性より女性の回答が多くなっていますが、「女性自身の職業に対する、自覚の問題」は女性よりも男性の方が多く回答しています。



【参考：平成 10 年調査】

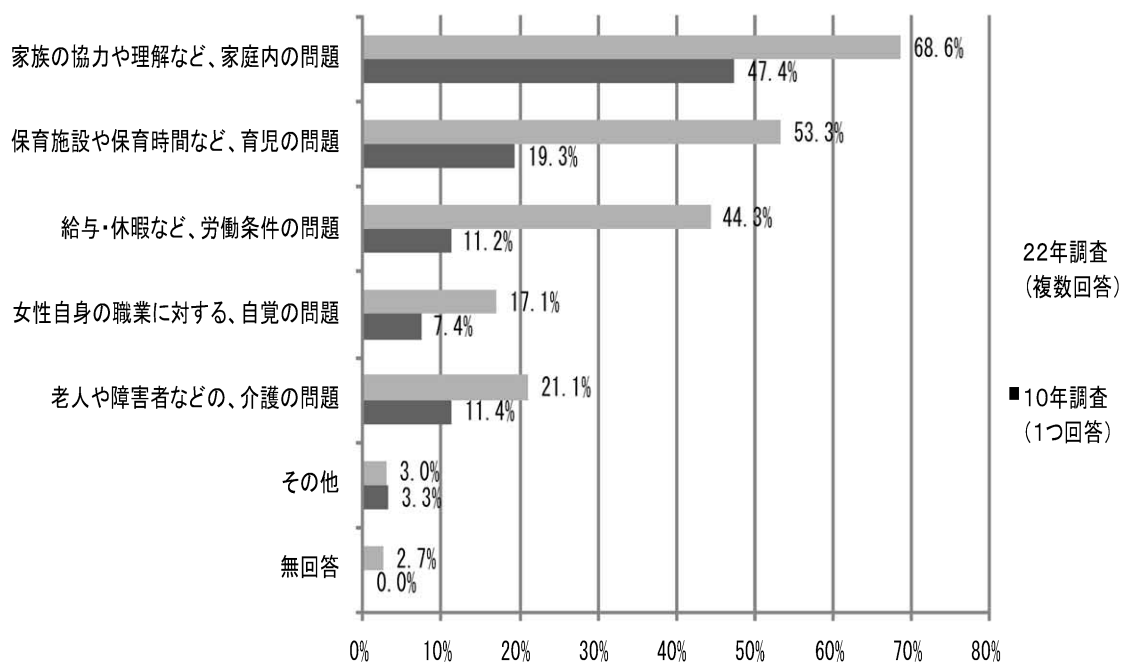
問 あなたは、女性が仕事をしていると、どんな障害があると思いますか。1つだけ選んでください。



【前回調査との比較】

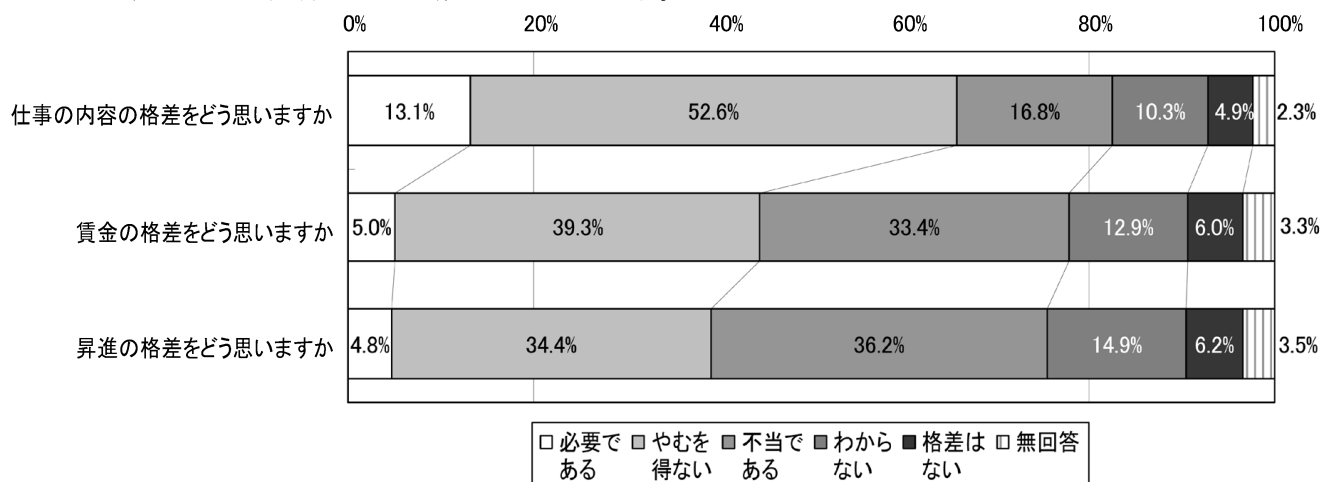
前回調査（平成10年）と比較すると、今回の調査では、複数回答としているため、それぞれの回答が多くなっていますが、前回調査と同じような傾向が見られます。特に「給与・休暇など労働条件の問題」、「保育施設や保育時間など育児の問題」と答えた方が増えています。

	22年調査 (複数回答)	10年調査 (1つ回答)
家族の協力や理解など、家庭内の問題	68.6	47.4
保育施設や保育時間など、育児の問題	53.3	19.3
給与・休暇など、労働条件の問題	44.3	11.2
女性自身の職業に対する、自覚の問題	17.1	7.4
老人や障害者などの、介護の問題	21.1	11.4
その他	3	3.3
無回答	2.7	0



問16 あなたは、一般的に男性と女性が異なる立場に置かれていることについて、どう思いますか。（それぞれ1つに○）

仕事の内容格差は、賃金格差、昇進格差に比べ「必要である」、「やむを得ない」と回答した人が多くなっています。賃金格差と昇進格差では、「やむを得ない」と「不当である」と回答した人の割合がほぼ同数となっています。



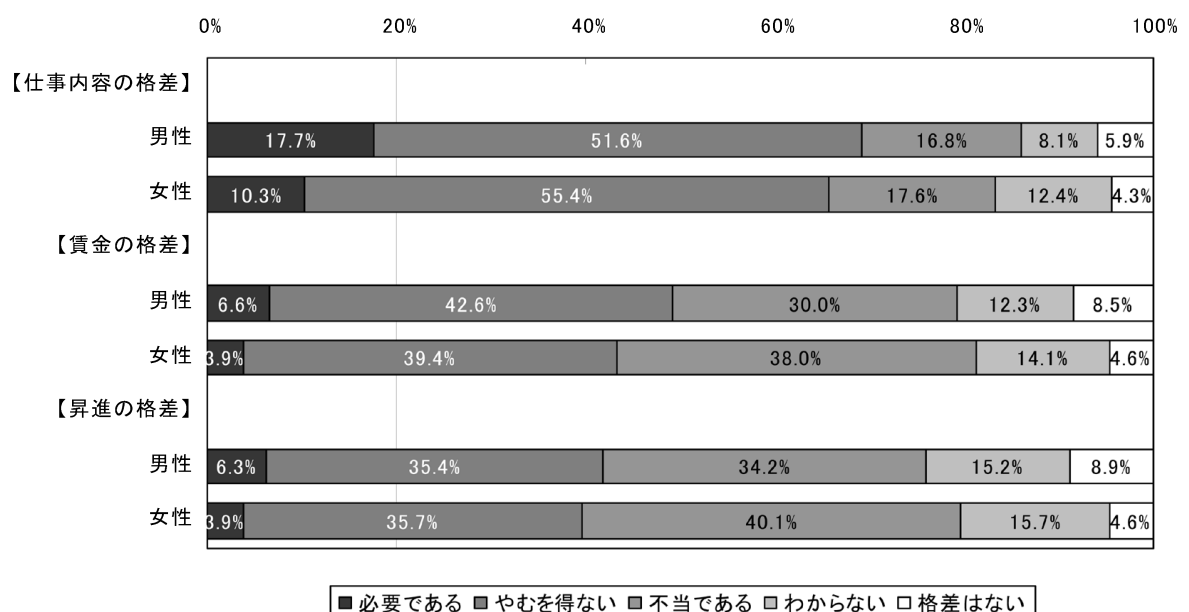
問16：男性と女性が異なる立場に置かれることについて（男女別）

仕事内容の格差では、女性より男性の方が「必要である」と回答した人が多くなっており、「不当である」と回答したのは男性より女性の方が多くなっています。

賃金の格差でも仕事内容と同様に男性の方が「必要である」、「やむを得ない」と回答した人の割合が多くなっています。また、「格差はない」と回答した人も女性よりも男性の方が多くなっています。

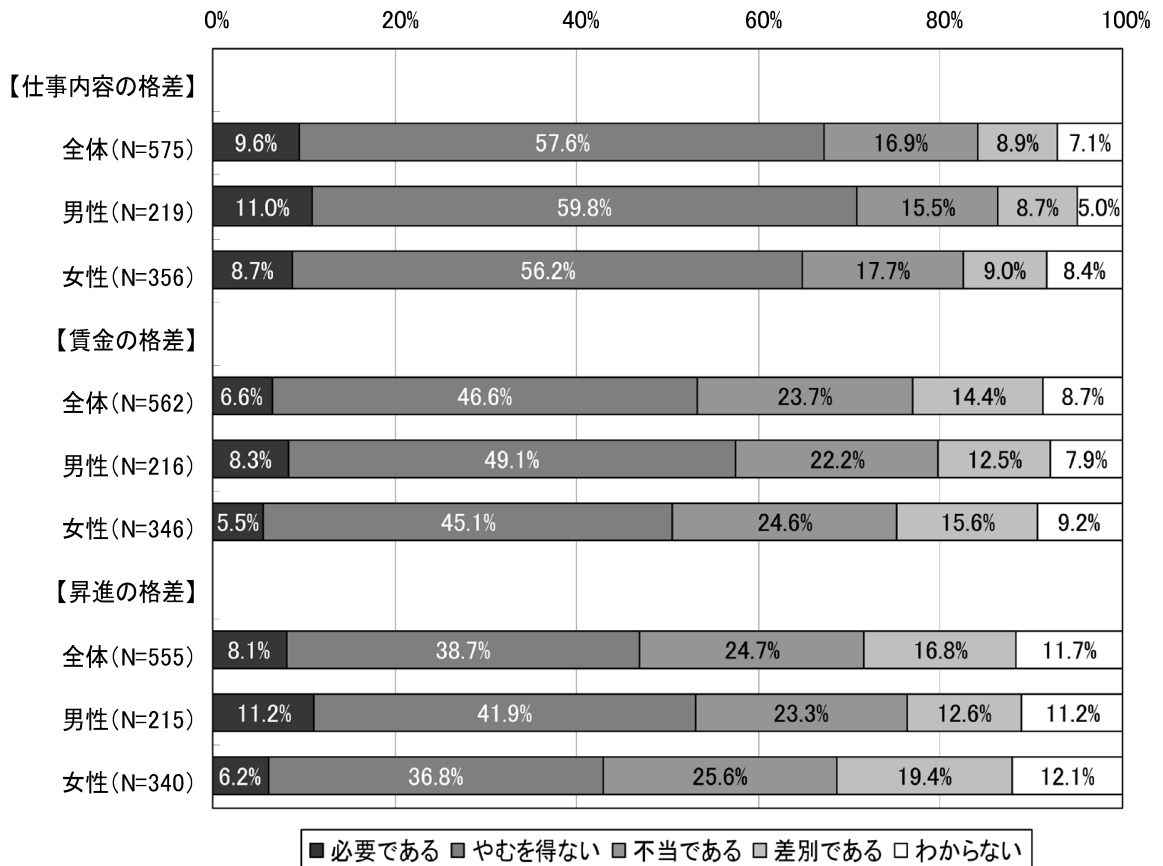
昇進の格差では、「不当である」と回答した人が他項目より男性、女性共に多くなっています。

男性と女性が異なる立場に置かれることについて



【参考：平成 10 年調査】

問 あなたは、女性が働き続けるうえで、さまざまな面で男性と異なる立場に置かれていることについて、どう思いますか。1 つずつ選んでください。



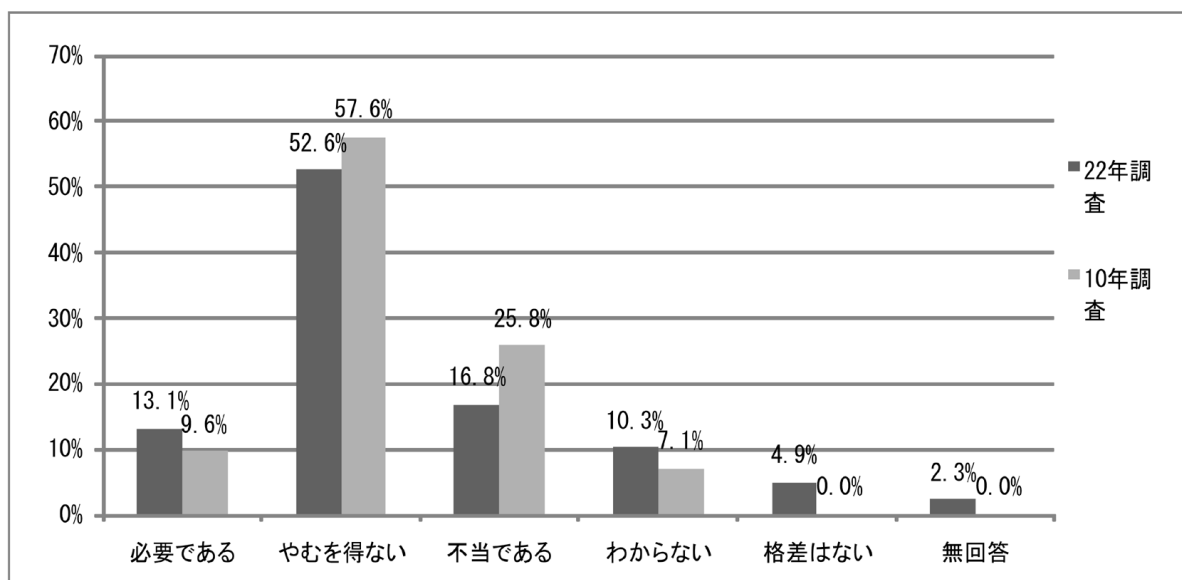
【前回調査との比較】

「仕事内容の格差について」は、前回調査（平成 10 年）と比較すると、「必要である」と答えた人が増え、「不当である」と答えた人は減っています。

図1 仕事内容の格差について

	必要である	やむを得ない	不当である	わからない	格差はない	無回答
22 年調査	13.1	52.6	16.8	10.3	4.9	2.3
10 年調査	9.6	57.6	25.8	7.1	0	0

※10年調査では、「格差はない」という回答はありませんでした。



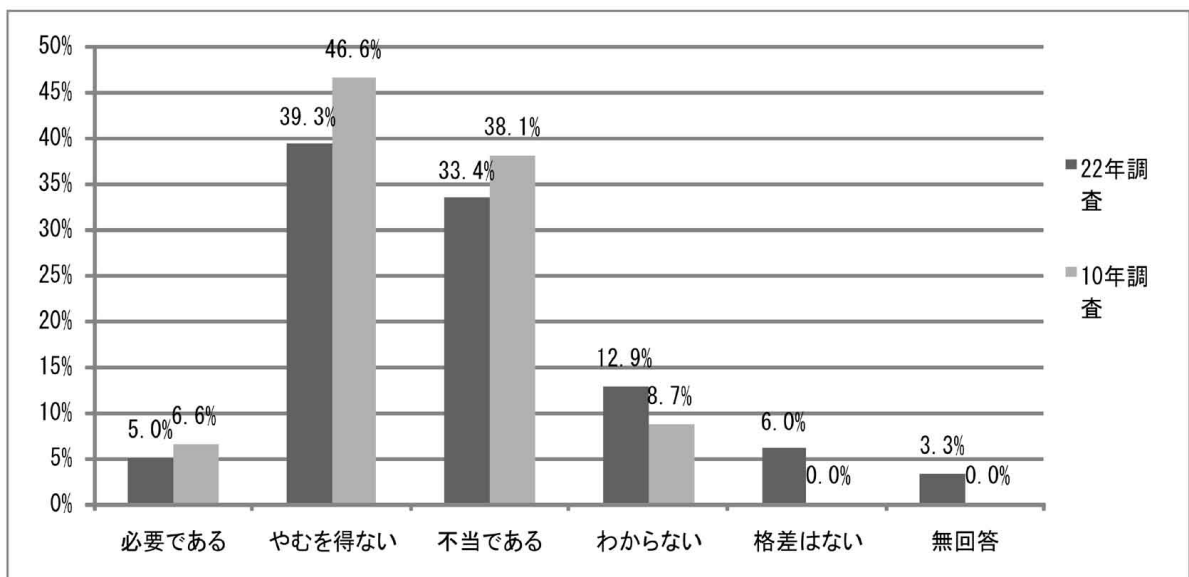
【前回調査との比較】

「賃金の格差について」は、前回調査（平成 10 年）と比較すると、「必要である」「やむを得ない」「不当である」と答えた人は減り、「わからない」という回答が増えています。

図2 賃金の格差について

	必要である	やむを得ない	不当である	わからない	格差はない	無回答
22 年調査	5	39.3	33.4	12.9	6	3.3
10 年調査	6.6	46.6	38.1	8.7	0	0

※10年調査では、「格差はない」という回答はありませんでした。



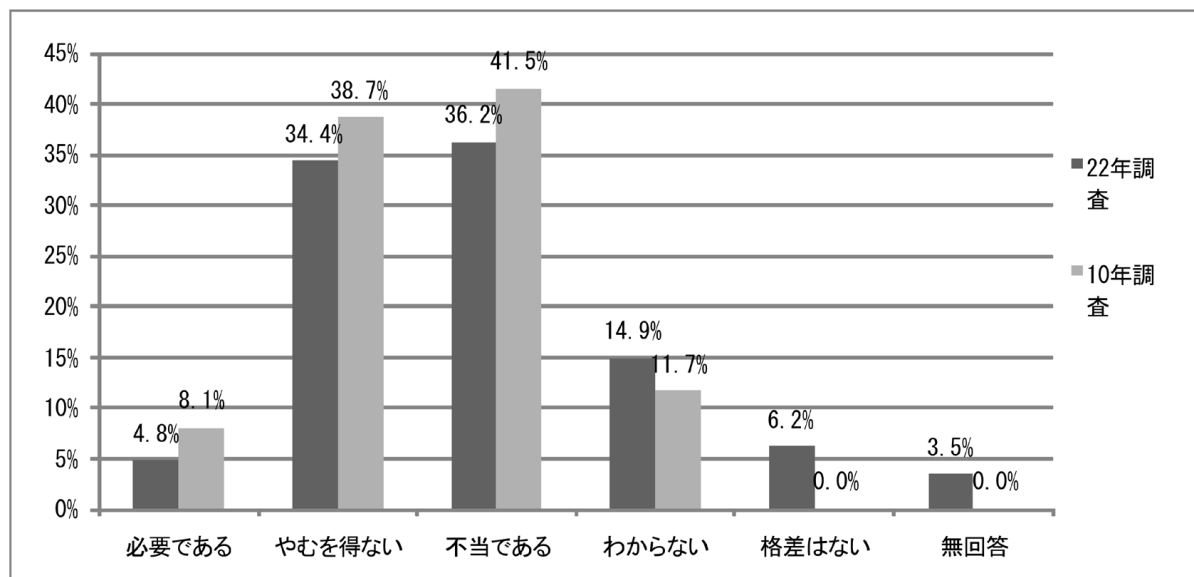
【前回調査との比較】

「昇進の格差について」は、前回調査（平成 10 年）と比較すると、「必要である」「やむを得ない」「不当である」と答えた人は減り、「わからない」と答えた人が増えています。

図3 昇進の格差について

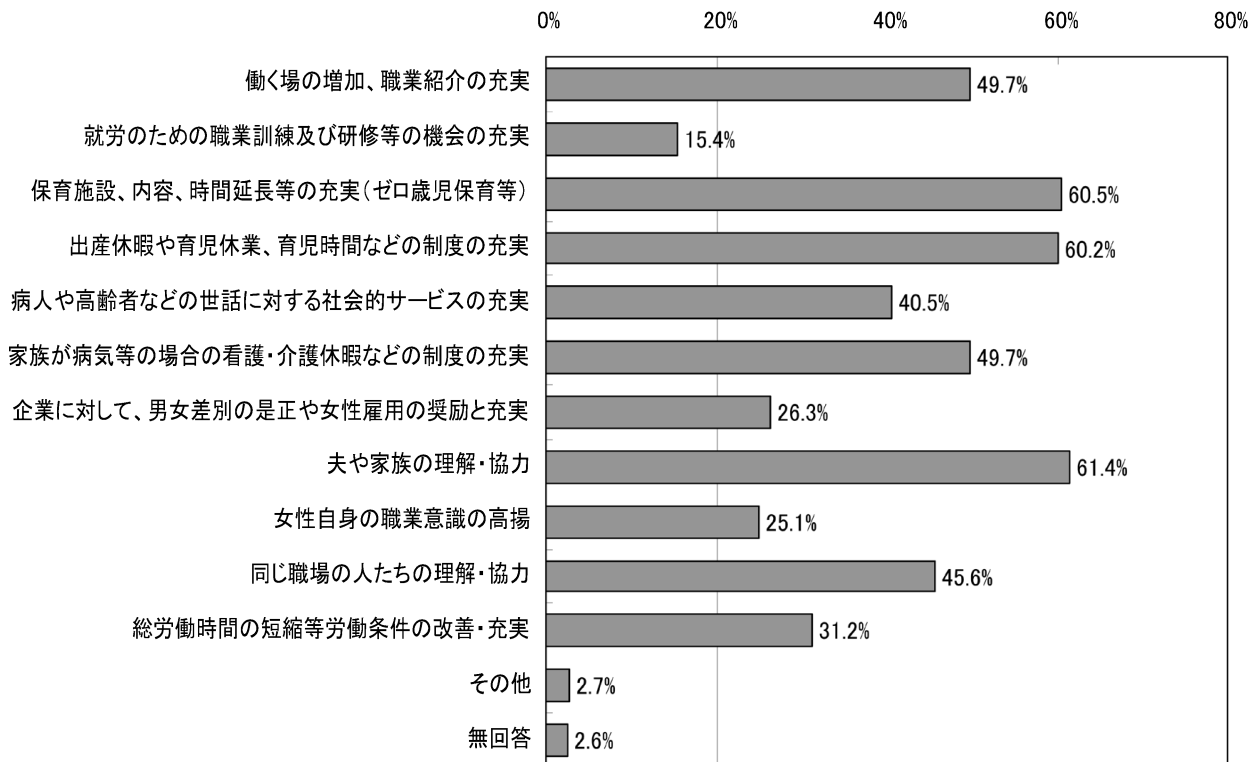
	必要である	やむを得ない	不当である	わからない	格差はない	無回答
22 年調査	4.8	34.4	36.2	14.9	6.2	3.5
10 年調査	8.1	38.7	41.5	11.7	0	0

※10年調査では、「格差はない」という回答はありませんでした。



**問17 あなたは、女性が働き続けるために特に必要なことは何だと思いますか。
(〇はいくつでも)**

「夫や家族の理解・協力」と回答した人が 61.4%と最も高くなっており、次いで「保育施設、内容、時間延長の充実（ゼロ歳児保育等）」が 60.5%、「出産休暇や育児休業、育児時間などの制度の充実」が 60.2%となっています。

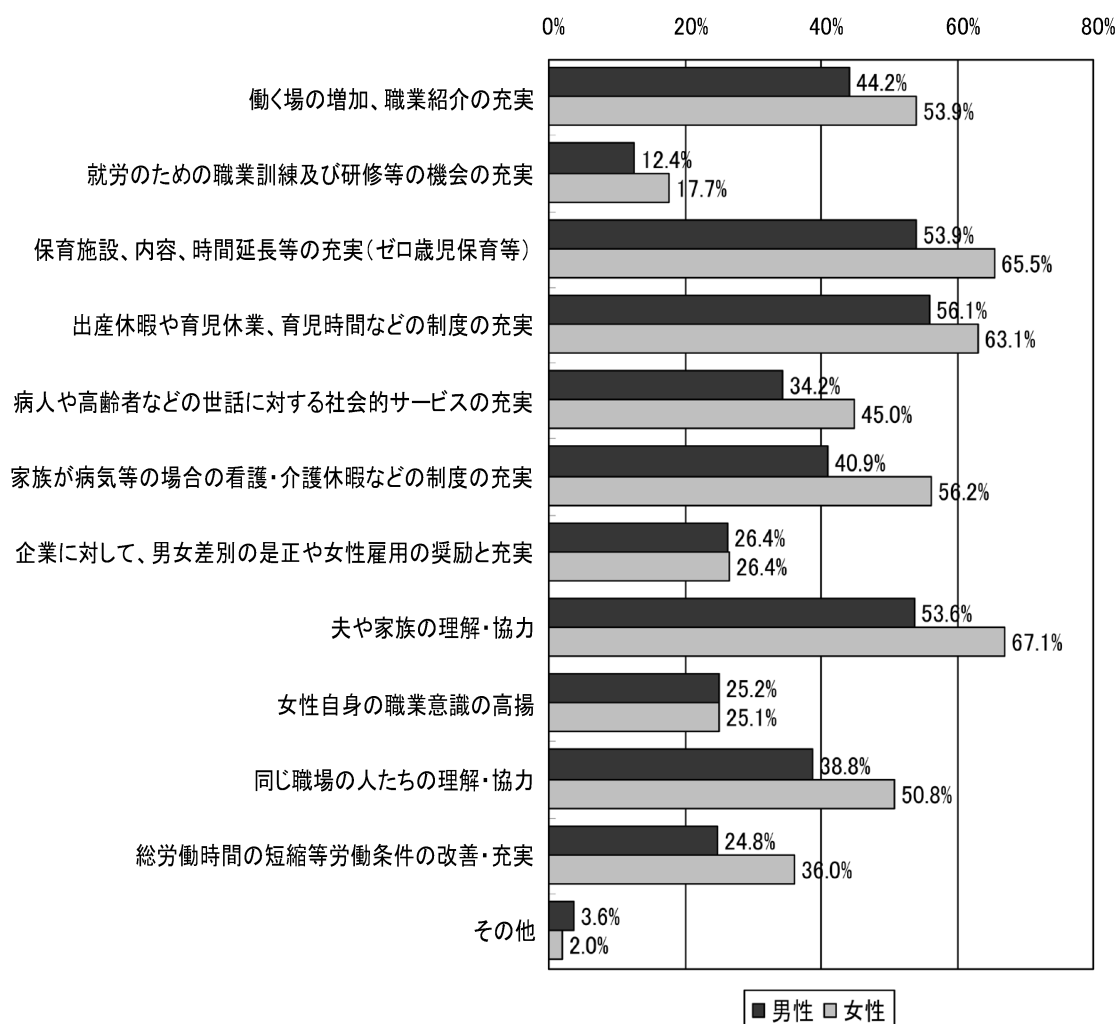


■「その他」の回答

- ・収入が多いと税金がかかるのをやめてほしい。
- ・気合い、努力。
- ・本人、家族が健康であること。
- ・信念や信条等の意思の強さ。
- ・項目 1 1 は現状賃金が大幅に削減されると本末転倒になる。削減分を社会負担すること。
- ・沼田は職場がないので、職場を多くすべき。
- ・企業努力(経営者の意識改善)。
- ・専業主婦に対する年金制度の優遇廃止。
- ・子供を作らない決意。

問 1 6：女性が働き続けるために必要なこと（男女別）

ほぼすべての項目で男性よりも女性の回答が多くなっています。その中で男女差が大きい項目は、「保育施設、内容、時間延長等の充実（ゼロ歳児保育等）」、「家族が病気等の場合の看護・介護休暇などの制度の充実」、「夫や家族の理解・協力」、「同じ職場の人たちの理解・協力」、「総労働時間の短縮等労働条件の改善・充実」となっています。

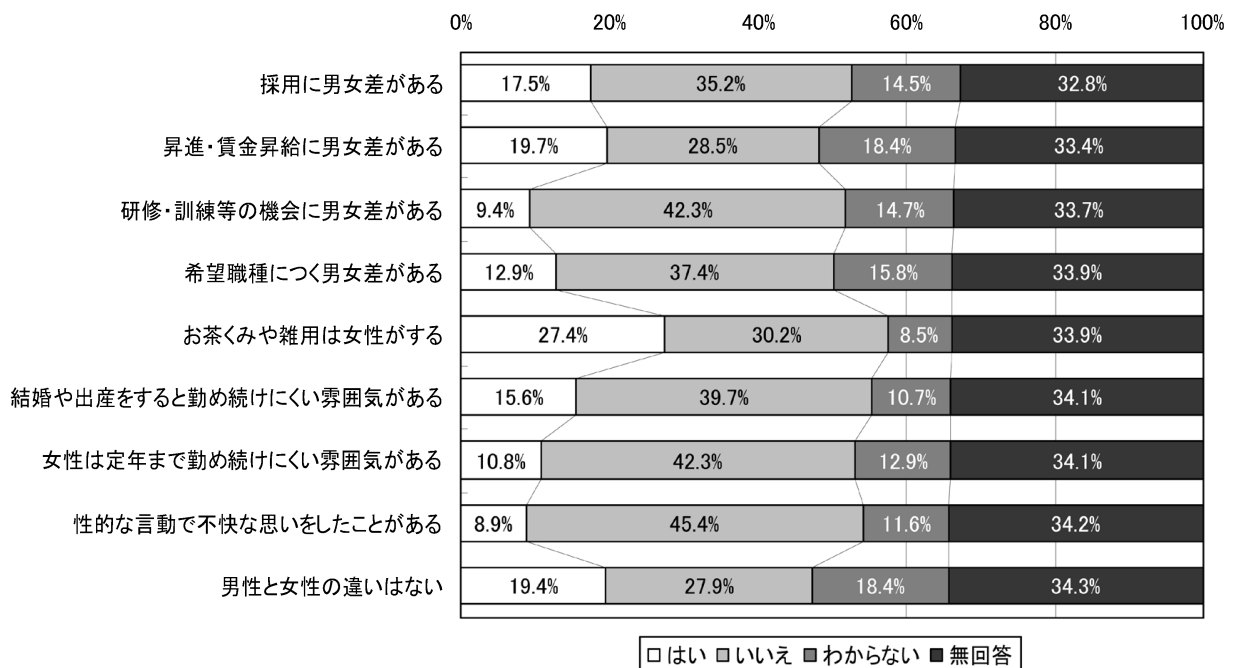


問18 【現在、働いている方に伺います】

あなたの職場では、次のようなことがありますか。（それぞれ1つに○）

「はい」という回答が多い項目としては、「お茶くみや雑用は女性がする」が27.4%と最も多く、「昇進・賃金昇給に男女差がある」の19.7%、「採用に男女差がある」の17.5%となっています。

一方、「いいえ」という回答が多い項目は、「性的な言動で不快な思いをしたことがある」が45.4%と最も多く、「研修・訓練等の機会に男女差がある」、「女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある」の42.3%となっています。



■「その他」の回答

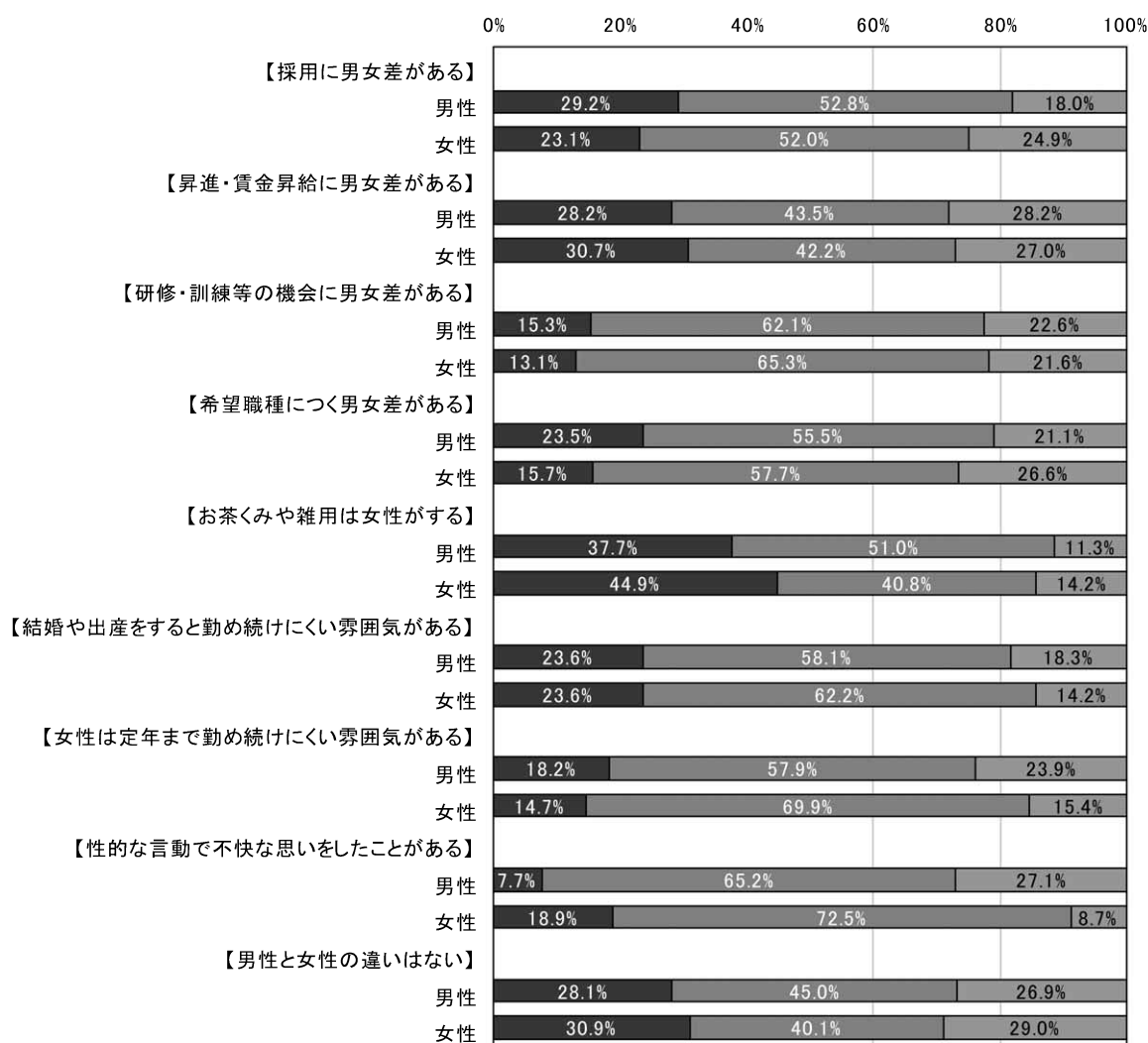
- ・女性が1人もいない会社です。
- ・女の職場なので分かりません。
- ・顔の事や年齢の事を言う上司がいる。
- ・資格を有する職種は雇用条件の男女差が少ないが、休暇を自由に取れず困っている。
- ・女性は賃金の差があるが、職務内容(時間)も優遇されている。
- ・従業員が女性のみ。
- ・自営業なので別になにもない。
- ・働いてないのでわからない。
- ・国がやる気がないから何をいってもムダでしょうね。
- ・10年も働いているのに、その位が出来ないのかと土建会社だったので、本人は一生懸命やっていました。出来ない事もあると思います。
- ・男女別の仕事内容。ハッキリしている。
- ・女性は力仕事の面で、あまり参加しないことが多い。

- ・以前は公務員だった職場なので働きやすいと思う。しかしそれにはそれなりの努力や勉強が常に必要とされます。
- ・違いはないと言っても筋力的、体力的な体の仕組みの違いを仕事に対して考慮して欲しい。
- ・部署移動、他の関連施設へ移動。
- ・仕事の内容が違います。
- ・残業が多いので、子どものいる人は帰るのに気まずい思いをしている。

問 18：職場であること（男女別）

「はい」という回答があった項目を男女別に見ると、「採用に男女差がある」、「希望職種につく男女差がある」の項目では男性の回答が多く、「お茶くみや雑用は女性がする」、「性的な言動で不快な思いをしたことがある」などの項目では女性の方が多く回答しています。

あなたの職場で次のようなことがありますか



■ はい ■ いいえ ■ わからない